shindaiwa

エンジンブロワ
（ハンディータイプ）

EB240

取扱説明書

● ご使用前に必ずお読みください。

1	仕　様	P 1
2	安全作業のお願い	P 2
	服　装	P 2
	作業前の点検	P 2
3	各部の名称	P 3
4	組立の手順	P 4
	ブローパイプの取付け	P 4
5	エンジンの始動、停止、調整	P 5
	燃料の補給	P 5
	始動のしかた	P 5
	停　止	P 6
	エンジンの調整	P 7
	スロットルケーブルの調整	P 8
6	操　作	P 8
7	手入れと調整	P 9
	エアクリーナ	P 9
	スパークプラグ	P10
	マフラ	P10
	シリンダのフィン	P11
8	故障の診断と処理	P12
9	長期保管	P14

新ダイワ工業株式会社

はじめに

このたびは、当製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
安全に能率よく作業していただくために、ご使用前に必ずこの説明書をお読みください。
適切な取扱いと保守をしていただき、末ながくご愛用くださるようお願い申し上げます。

1 仕様

項目＼モデル名		EB240
外形寸法 mm (長さ×幅×高さ)		325×230×330
本体乾燥重量 kg		4.2
エンジン	形式	正立空冷2サイクルガソリンエンジン
	総排気量 cc	24.0
	使用燃料	ガソリン25：2サイクル専用オイル1
	燃料タンク容量 ℓ	0.5
	気化器	ダイヤフラム式始動ポンプ付き
	点火方式	電子点火
	スパークプラグ	チャンピオン　CJ8
	始動方式	リコイルスタータ
	停止方式	トグルスイッチ
	エアクリーナ	半湿式消音形
標準装備		ブローパイプ ノズル 付属工具一式

※本体乾燥重量はブローパイプ、ノズルを除く。
※仕様は予告無く変更することがあります。

2 安全作業のお願い

作業を始める前に、必ず作業手順及び安全作業の事項をよく読んで理解してください。

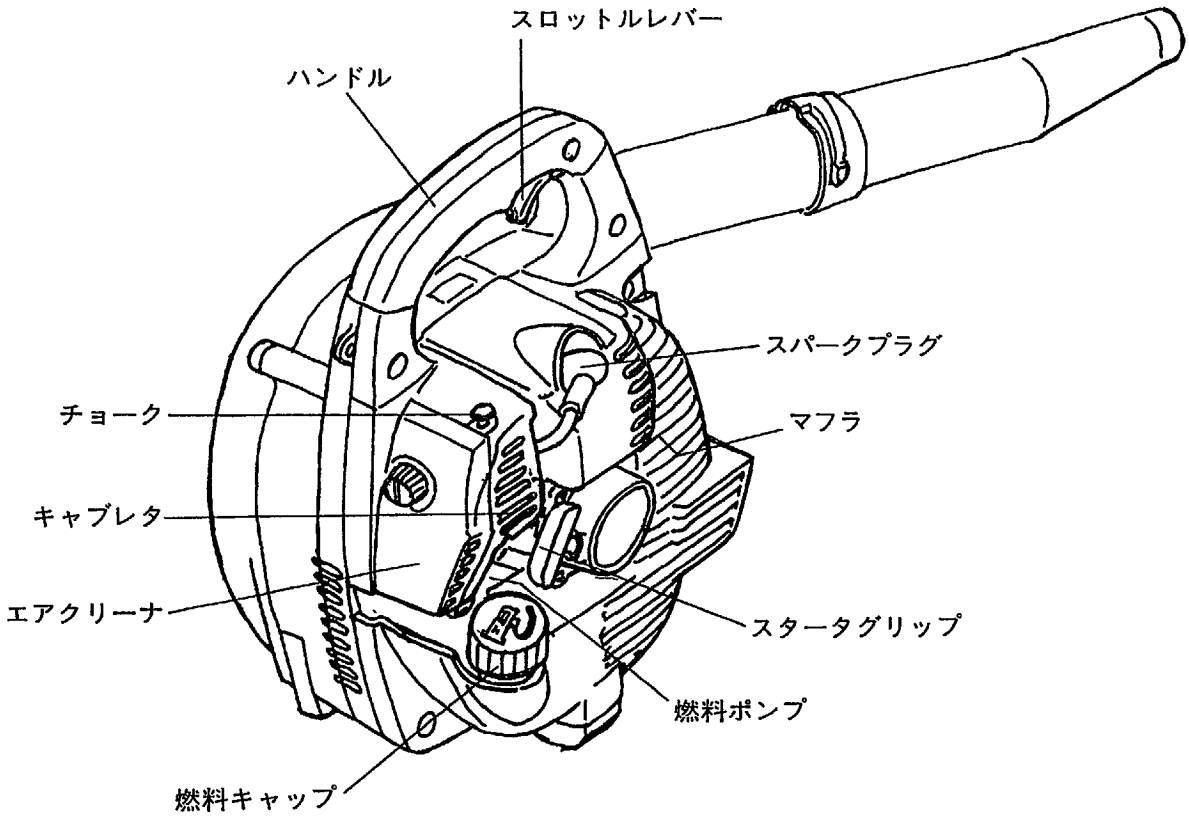
2－1 服 装

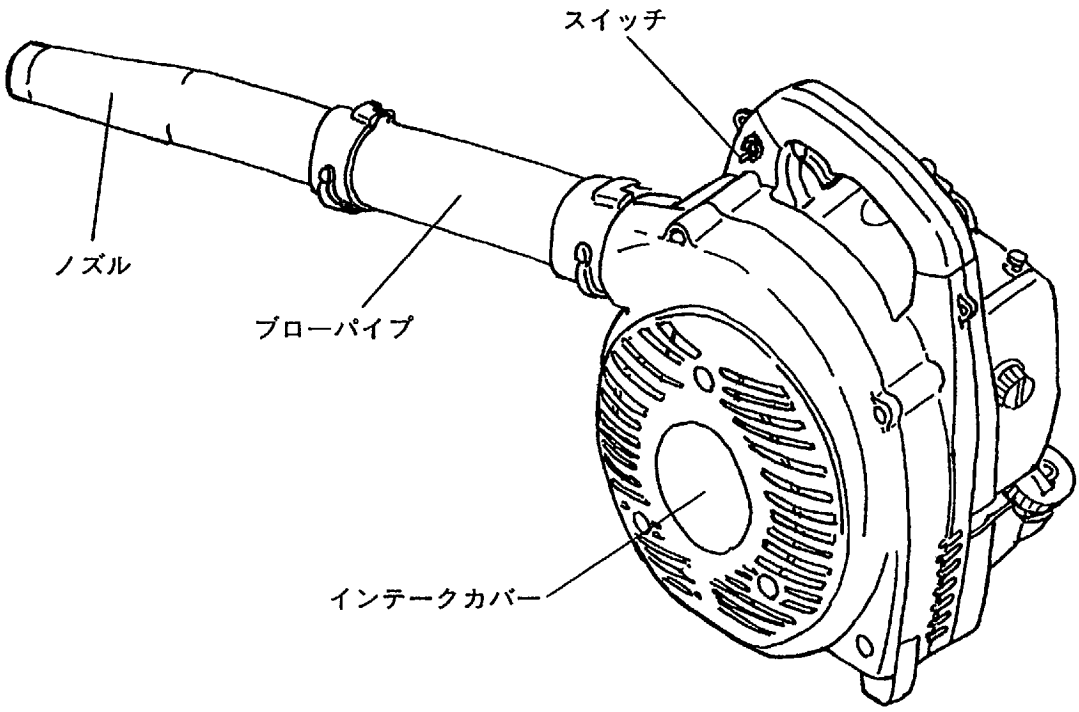
1．安全めがねを常に着用してください。ごみや破片などが目や顔に飛んで来ます。
2．耳栓を常に装着してください。
3．長いズボン、長袖の衣服、安全靴を着用してください。
裾のひらひらした衣服やスカーフを着用しないでください。
4．手袋を使用してください。

2－2 作業前の点検

1．疲労や病気の時、精神的に不安定なとき、アルコールや薬が効いているときは、絶対にブロワを操作しないでください。
2．取扱説明書に記載してある安全項目を読んでよく理解し各項目に従ってチェックしてください。
3．ねじ類のゆるみをチェックし、必要があれば増し締め、ボルト・ナットの修理または交換してください。
4．ブロワを操作する前に、エアクリーナのフィルタをチェックし、ごみがあれば掃除をしてください。
5．屋内で運転しないでください。
エンジンの寿命や人体に悪影響があります。
6．作業範囲内に他の人がいないか確認してください。
7．ブロワの吹き出し口を人や動物に向けて、直接風を当てないでください。
8．高速での運転時にブロワを直接地面に置かないでください。砂、草、落ち葉、ごみ等がブロワの吸い込み口から入りファン等を損傷させます。
9．運搬中はブロワの運転は絶対にしないでください。
10．ブロワ作業を始める前に、その地域の騒音規制時間を確認してください。規制時間内では作業を行わないでください。
早朝や深夜は安静のためブロワの作業を避けてください。

3　各部の名称

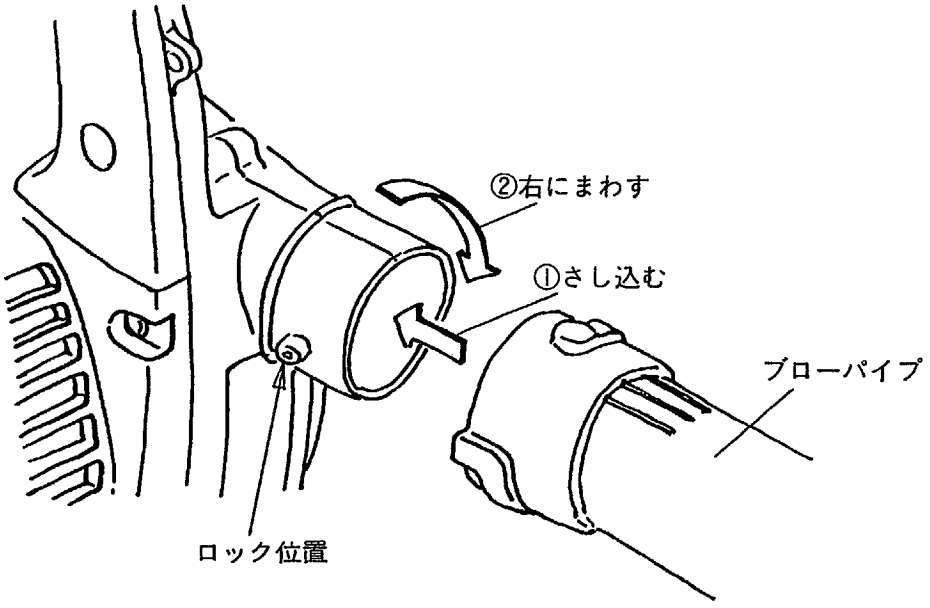

スロットルレバー
ハンドル
スパークプラグ
チョーク
マフラ
キャブレタ
エアクリーナ
スタータグリップ
燃料ポンプ
燃料キャップ


スイッチ
ノズル
ブローパイプ
インテークカバー

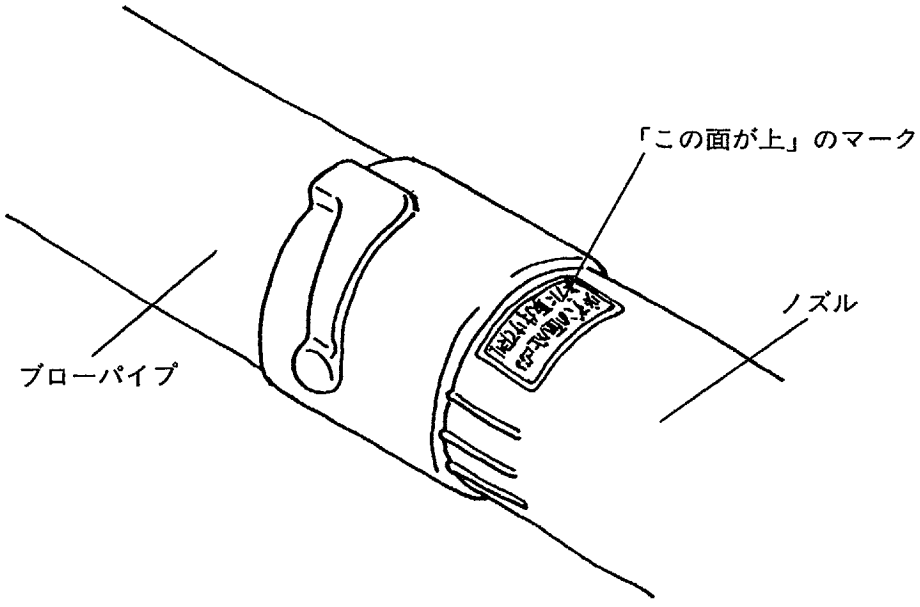
4　組立の手順

4－1　ブローパイプの取付け

1．ブロワ本体の先端にブローパイプを取付けます。その際、ロック位置に当たるまで挿入し、止まるまで右に回してください。



2．同様に、ノズルをブローパイプに取付けます。
ノズルは、「この面が上」のマークが上になるように取付けてください。逆に取付けるとブロワ全体のバランスが悪くなり、疲れ易くなります。



5　エンジンの始動、停止、調整

5－1　燃料の給油（混合燃料）

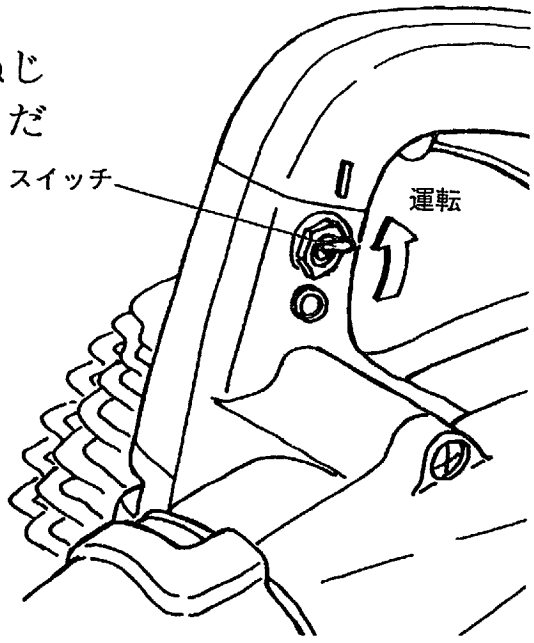
燃料はガソリン25に対してオイル１の割合で混合して給油してください。

オイルは必ず２サイクル専用オイルを使用してください。

注）１．燃料補給の前に必ずエンジンを停止してください。
２．屋外の平らな場所で給油してください。
３．給油時に燃料が漏れないよう注意してください。
漏れた場合はエンジンを始動する前にこぼれた燃料を完全に拭き取ってください。
４．ブロワや燃料のそばでたばこやたき火はしないでください。

5－2　始動のしかた

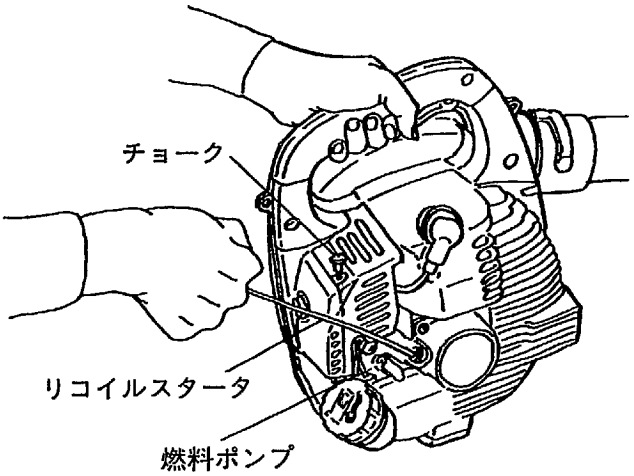
エンジンを始動する前に各部のねじ類が緩んでいないかチェックしてください。



１．スイッチを上にあげて「Ｉ（運転）」の位置にする。

２．エンジンが冷えているとき、及び燃料切れで補給したとき
①キャブレタの下についている燃料ポンプ（透明の半球型）を数回押してオーバーフローパイプに燃料が流れはじめ、泡が少なくなったらやめてください。
②チョーク⌊／⌋のつまみを引きます。

３．左手でハンドルを押さえて、リコイルスタータを軽く引きます。
エンジンが始動したら、チョーク⌊／⌋のつまみを徐々に押し戻してください。



4．チョーク⌐/¬のつまみを戻しきらないうちに停止した場合は、つまみを引いて再始動してください。

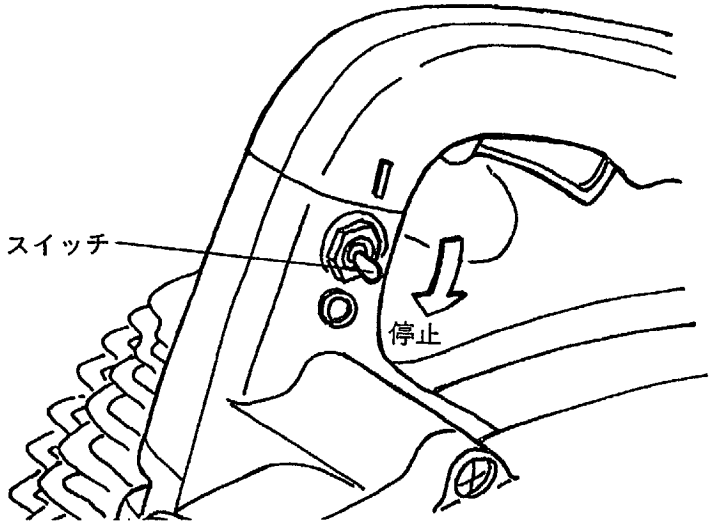
●爆発音がしてすぐに停止した場合は、チョークのつまみを押し戻し再始動してください。

注）始動のときに、スタータロープを最後まで引くとロープの寿命が短くなります。
できるだけロープの長さの１／２～２／３迄にしてください。圧縮が効いて重くなった位置から勢いよく引けば容易に始動します。

5．エンジンが始動したら２～３分アイドリングで暖気運転してください。

5－3　停　　止

エンジンを停止させるときには、スロットルレバーをアイドリングに戻し、２～３分運転してからスイッチを下におろして「O（停止)」にしてください。



注）もしエンジンが停止しない場合は、チョーク⌐/¬のつまみを引いて停止させてください。
再始動の前に、スイッチや電気系統をチェックし、修理してください。

5－4　エンジンの調整

エンジンを始動し２～３分低速で暖気運転をした後に調整してください。

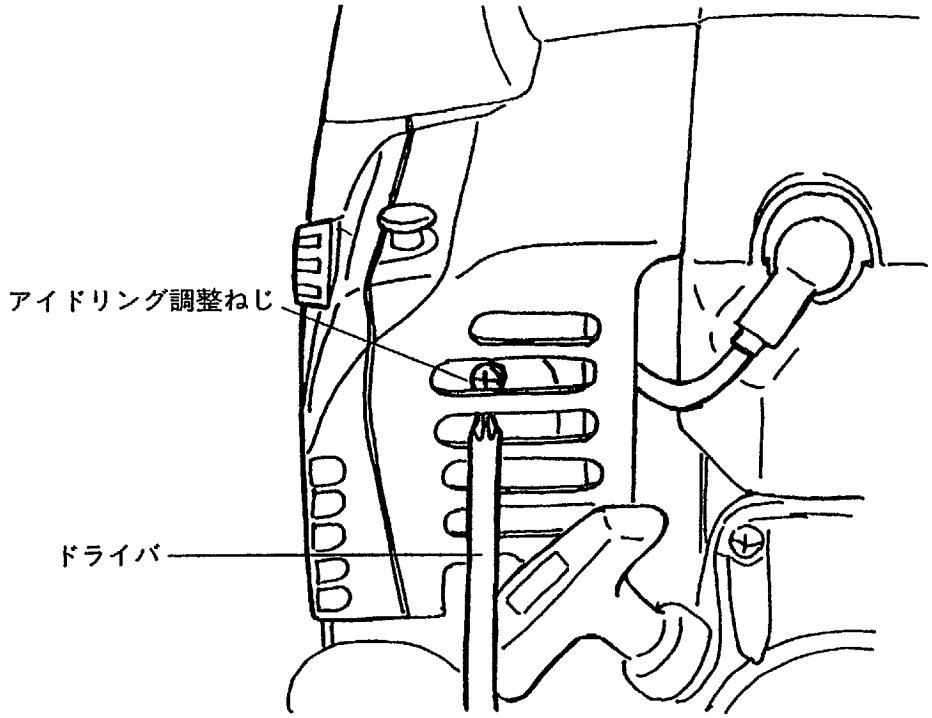
ブロワにブローパイプとノズルを確実に取付けた状態で調整してください。

１．アイドリング調整

スロットルレバーから指を離した状態で、安定して回転するようアイドリングを調整してください。

アイドリング調整ねじ　{右に回すと→回転が早くなる
　　左に回すと→回転が遅くなる

注）アイドリングの回転数は2300～2500rpmです。



２．高速の調整

メインジェットは固定式ですので、調整の必要はありません。

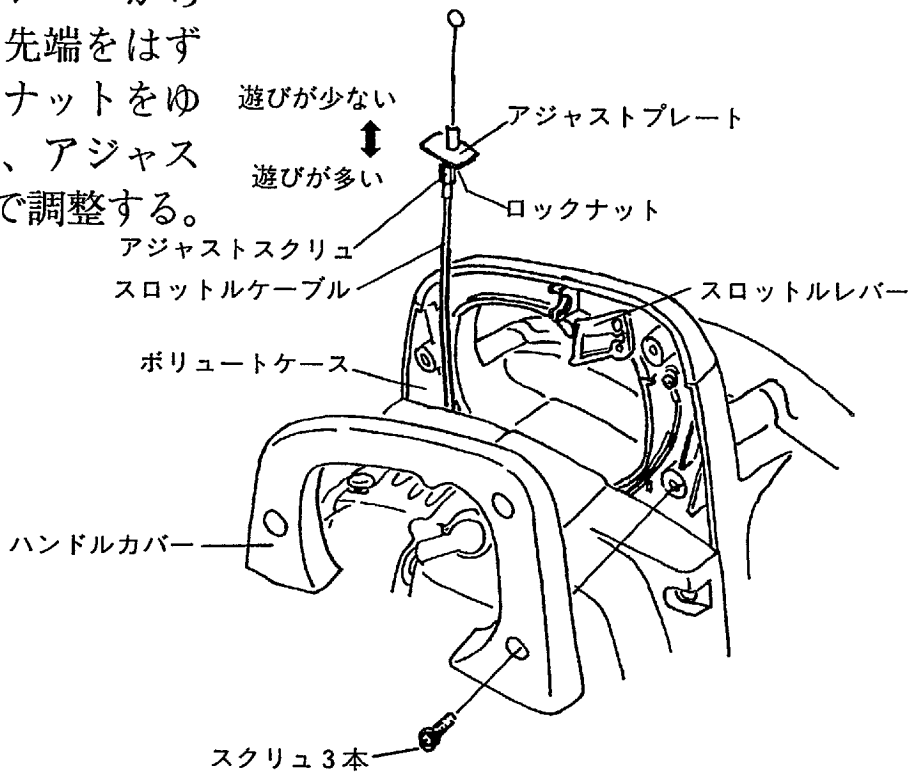
注）１．最高回転数は6800～7200rpmです。
　　２．不調の場合は、当社指定特約店に調整を依頼してください。

5－5　スロットルケーブルの調整

必要以外にスロットルケーブルの調整はしないでください。

1．スクリュ３本をゆるめて、ハンドルカバーをボリュートケースからはずしてください。

2．スロットルレバーからケーブルの先端をはずし、ロックナットをゆるめてから、アジャストスクリュで調整する。



アジャストスクリュをねじ込むと→遊びが多くなる。
アジャストスクリュを戻すと　　→遊びが少なくなる。

3．スロットルケーブルを調整した後、ロックナットをやや固めに締めつけてから、元通りに組み立ててください。

6　操作

スロットルレバーを引くことにより、回転が上がり吹き出す風が強くなります。スロットルレバーで回転数を調整してください。

ノズルから吹き出す風で庭園の落葉や競技場での空缶、空瓶等が集められます。

・低速で芝生や灌木や花壇などの枯葉を集める。
・中速で中庭や舗道の駐車場の草や落葉を集める。
・高速で道路や駐車場や競技場の砂利、ごみ、雪、空缶、空瓶等を集める。

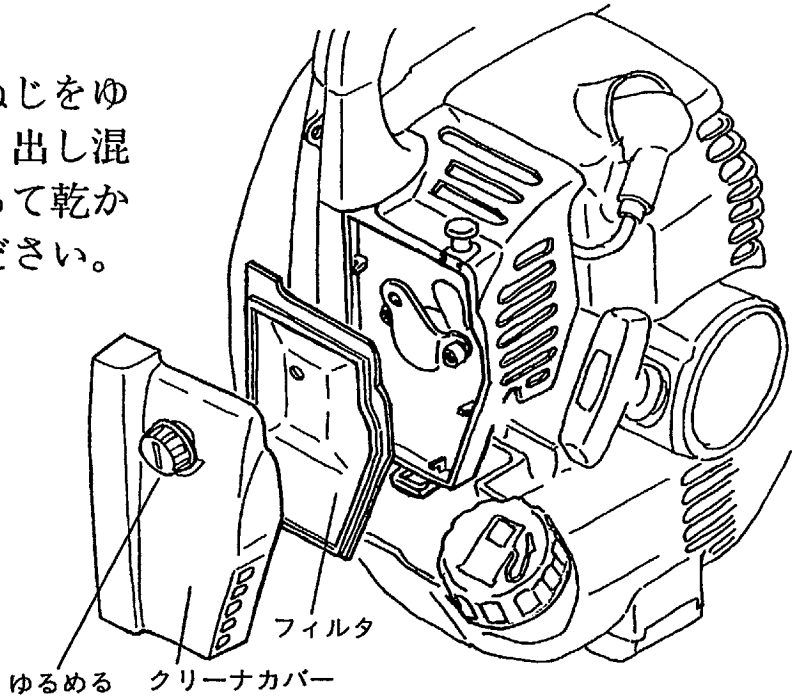
注) 1．作業を行うのに必要最小限の回転になるよう、スロットルレバーを操作してください。絶対に、必要以上に高速回転にしないでください。
回転を上げると、音も大きくなります。
2．ブロワの吹き出し口や空気吸い込み口をふさがないでください。回転が上がり過ぎてエンジンの故障の原因になります。

7 手入れと調整

7－1 エアクリーナ

10時間毎に（ほこりの多いところでは早めに）エアクリーナのフィルタを清掃してください。フィルタにごみが詰まると、エンジンの回転が落ちます。

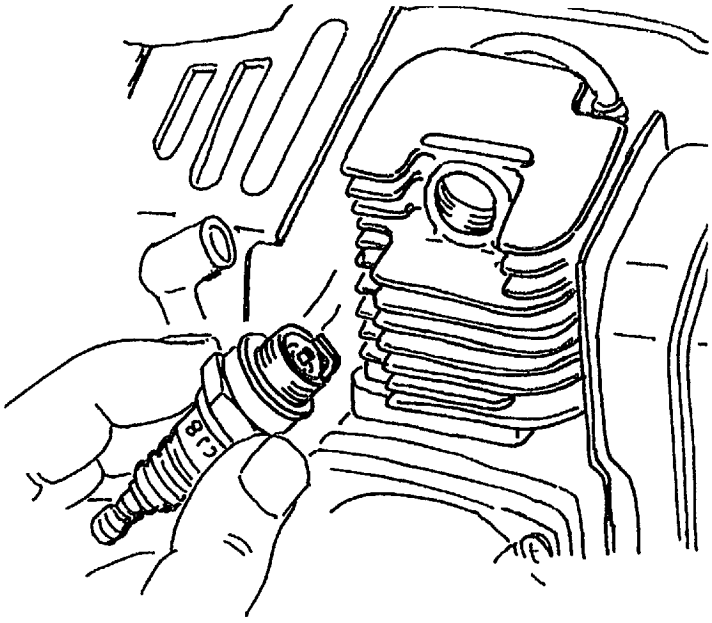
クリーナカバーのねじをゆるめてフィルタを取り出し混合燃料できれいに洗って乾かしてから取付けてください。



注) 1．エアクリーナのフィルタをはずしたままでは絶対にエンジンを運転しないでください。シリンダにほこりやごみを吸い込んでエンジンの故障の原因になります。
2．傷ついたフィルタは新品に交換してください。
3．クリーナカバーとクリーナボデーについたごみもきれいに拭き取ってください。

7－2　スパークプラグ

10～15時間毎にスパークプラグを掃除してください。



エンジンが熱いときにスパークプラグをはずさないでください。シリンダのねじ穴が損傷する原因になります。

スパークプラグをはずし、汚れを落として、隙間の調整をしてください。隙間は0.6mm（はがき３枚の厚さ）が適当です。

スパークプラグを交換するときは当社の純正品(チャンピオンCJ8)を使用してください。

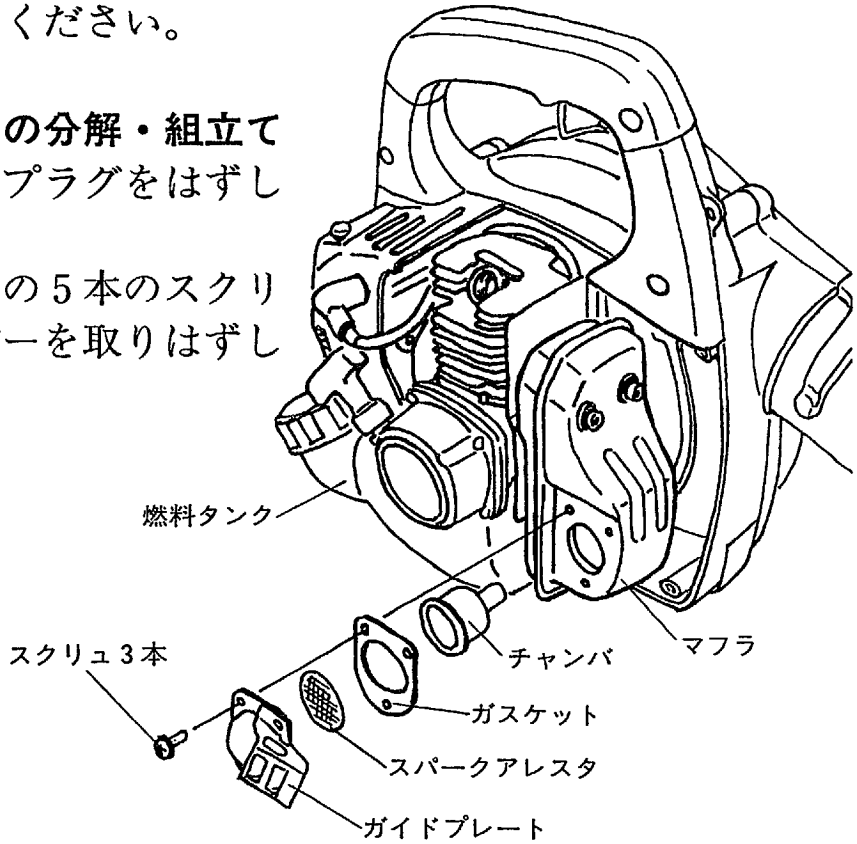
7－3　マ フ ラ

50時間毎に、マフラの排気口及びスパークアレスタを定期的にチェックし、清掃してください。

スパークアレスタの分解・組立て

1．まず、スパークプラグをはずします。

2．エンジンカバーの５本のスクリュをゆるめてカバーを取りはずします。



注）エンジンカバーをはずすとき、図のように燃料パイプ等を燃料タンクからはずさないようにしてください。

3．マフラの3本のスクリュをゆるめ、ガイドプレート、ガスケット、スパークアレスタ、及びチャンバをはずします。

① ワイヤブラシかプラスチックのスクレパで付着したカーボンを取り除きます。

② スパークアレスタが破れていたり錆びていたら新品に交換してください。

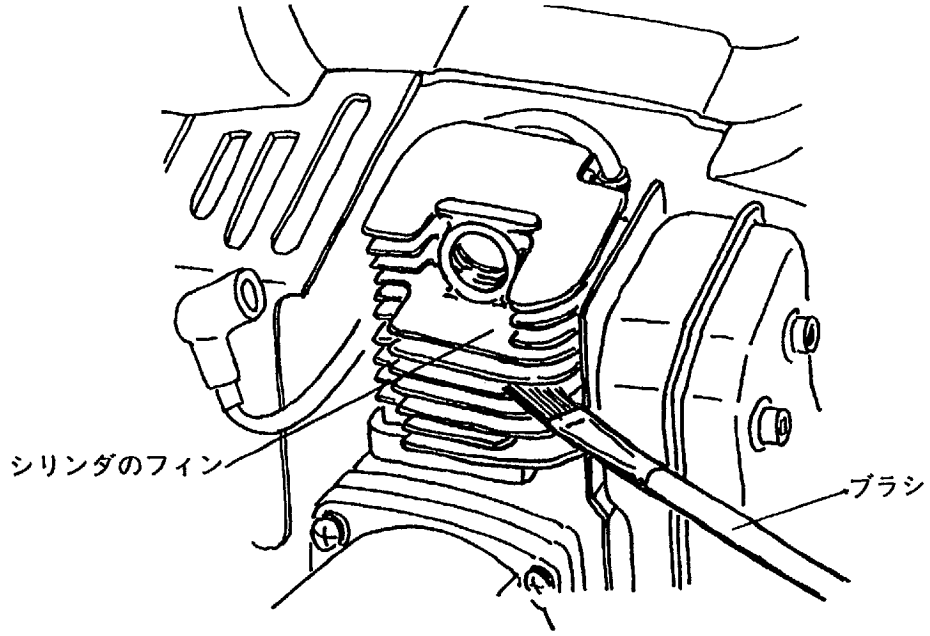
③ スパークアレスタを取付ける前に、チャンバ、ガイドプレートも掃除してください。

4．チャンバ、ガスケット、スパークアレスタ、ガイドプレート及びエンジンカバー、燃料タンクを元通りに取付けてください。

5．組み立てた後、燃料パイプやドレンパイプがキャブレタに確実に取付けてあるか確認してください。

7－4 シリンダのフィン

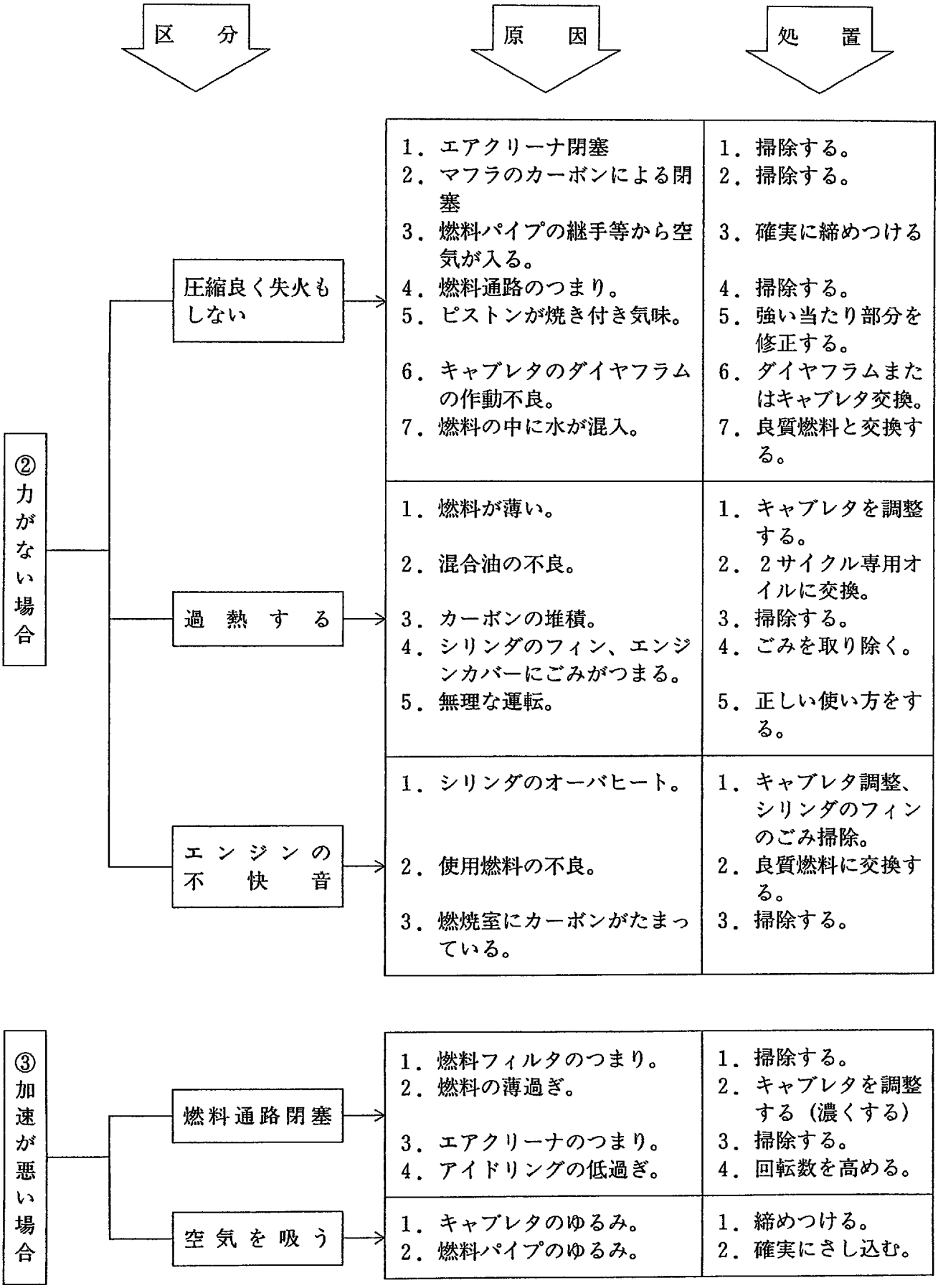
50時間毎に、エンジンカバーをはずし、軟らかいブラシでシリンダのフィンの隙間やエンジンカバーに付着している草やごみを取り除いてください。取付けるときは、元通りきちんとはめてください。

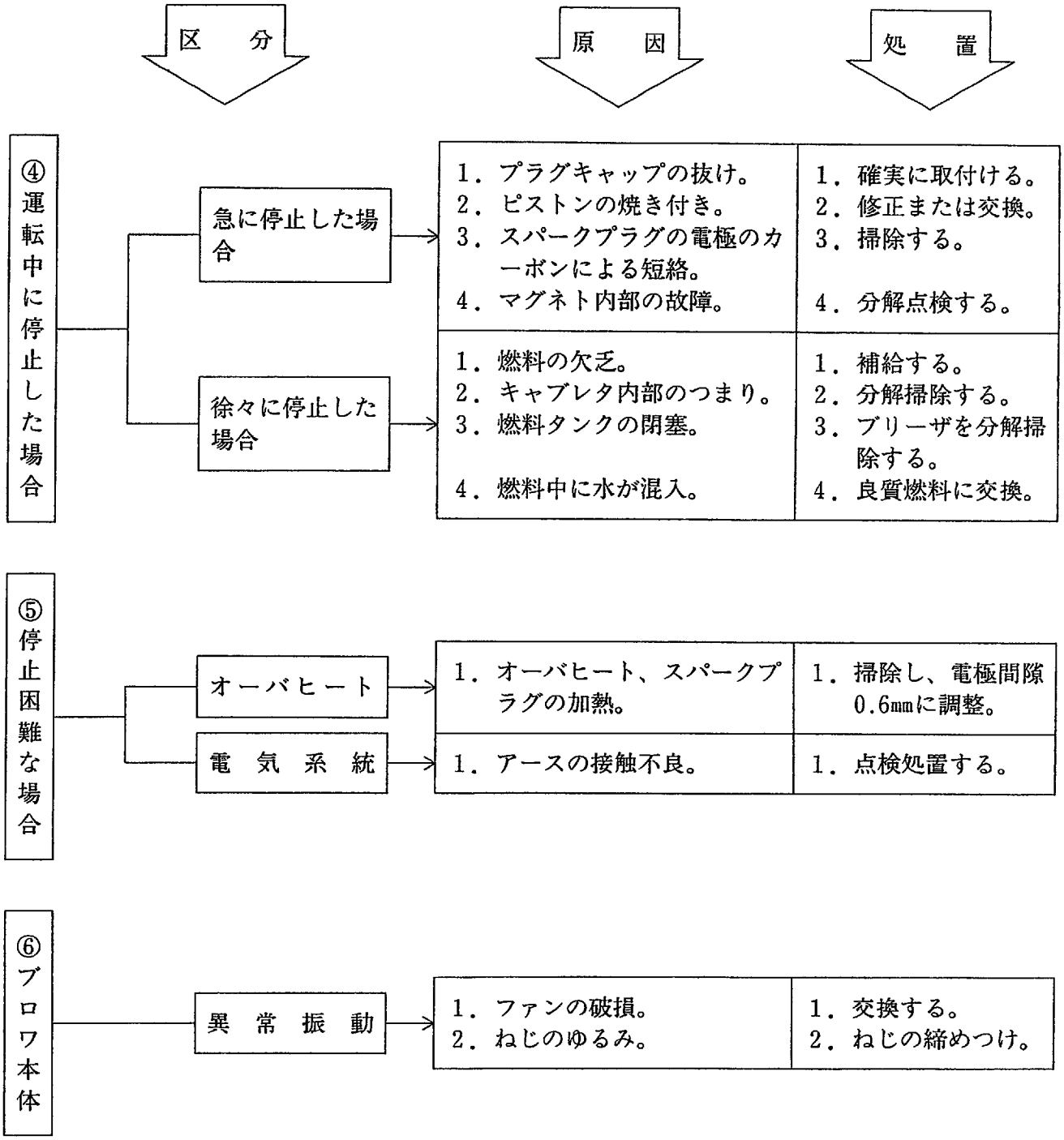


注意：オーバーヒートでエンジンが止まる原因は次の場合です。
1．ブロワの空気取入れ口がふさがり冷却風がエンジンに流れない場合。
2．シリンダの外周にごみや落葉がつまった場合。

8 故障の診断と処置

区分		原因	処置
①エンジンが始動しない場合	スパークプラグに火が飛ばない	スイッチ	1．スイッチが故障している。	1．良品に交換する。
		スパークプラグ	1．電極がぬれている。 2．電極にカーボンがたまっている。 3．碍子の亀裂等による絶縁不良。 4．電極間隙の過小または過大 5．電極の焼損。	1．乾燥させる。 2．掃除する。 3．良品に交換する。 4．0.6㎜に調整。 5．良品に交換する。
		マグネト	1．コイルが断線している。 2．コイルの絶縁不良 3．コード被覆の切損	1．良品に交換する。 2．良品に交換する。 3．交換または補修。
	スパークプラグに火が飛ぶ	圧縮も良好で燃料もくる	1．燃料の吸い過ぎ。 2．燃料の濃過ぎ。 3．不良燃料の使用。	1．リコイルスタータにて外部に放出する。 2．キャブレタを調整する。 3．良質燃料と交換する。
		燃料はくるが圧縮不良	1．シリンダ・ピストン・ピストンリングの摩耗。 2．スパークプラグが緩んでいる。	1．交換する。 2．締めつける。
		キャブレタに燃料がこない	1．燃料タンクに燃料がない。 2．燃料パイプ・キャブレタの取付けがゆるんでいる。 3．フィルタがつまっている。 4．燃料タンクに燃料はあるがキャブレタにこない。 5．ブリーザ通気穴の閉塞。	1．補給する。 2．締めつける。 3．掃除または交換する。 4．始動の項参照 5．掃除する。


区　分
原　因
処　置
②力がない場合
圧縮良く失火もしない
1．エアクリーナ閉塞
2．マフラのカーボンによる閉塞
3．燃料パイプの継手等から空気が入る。
4．燃料通路のつまり。
5．ピストンが焼き付き気味。
6．キャブレタのダイヤフラムの作動不良。
7．燃料の中に水が混入。
1．掃除する。
2．掃除する。
3．確実に締めつける
4．掃除する。
5．強い当たり部分を修正する。
6．ダイヤフラムまたはキャブレタ交換。
7．良質燃料と交換する。
過熱する
1．燃料が薄い。
2．混合油の不良。
3．カーボンの堆積。
4．シリンダのフィン、エンジンカバーにごみがつまる。
5．無理な運転。
1．キャブレタを調整する。
2．２サイクル専用オイルに交換。
3．掃除する。
4．ごみを取り除く。
5．正しい使い方をする。
エンジンの不快音
1．シリンダのオーバヒート。
2．使用燃料の不良。
3．燃焼室にカーボンがたまっている。
1．キャブレタ調整、シリンダのフィンのごみ掃除。
2．良質燃料に交換する。
3．掃除する。
③加速が悪い場合
燃料通路閉塞
1．燃料フィルタのつまり。
2．燃料の薄過ぎ。
3．エアクリーナのつまり。
4．アイドリングの低過ぎ。
1．掃除する。
2．キャブレタを調整する（濃くする）
3．掃除する。
4．回転数を高める。
空気を吸う
1．キャブレタのゆるみ。
2．燃料パイプのゆるみ。
1．締めつける。
2．確実にさし込む。



9　長期保管

長時間使用せずに保管する場合は、次の要領で保管してください。

1．各部は十分に清掃し、金属部には薄くオイルを塗って錆を防いでください。
2．燃料タンクとキャブレタの燃料を全部排出してください。エンジンを始動して燃料を使い切ってください。エンジンが止まったら、スイッチを○（停止）にしてください。
3．スパークプラグの穴から少量のオイルをシリンダ内に流し込み、オイルがゆきわたるように2～3回リコイルを引いて、圧縮のあるところで止めてロープを戻してください。
4．損傷箇所がある場合には、修理してから保管しましょう。
5．湿気の無いところ、ごみやほこりのつかない所に格納してください。

新ダイワ工業株式会社

本社	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2001
札幌営業所	〒065-0033	札幌市東区北三十三条東17丁目4-17	☎ 011-783-7551
仙台営業所	〒984-0042	宮城県仙台市若林区大和町1丁目22-45	☎ 022-239-1688
郡山営業所	〒963-0107	福島県郡山市安積4丁目48-1	☎ 024-945-8678
盛岡営業所	〒020-0122	岩手県盛岡市みたけ4丁目3-5	☎ 019-641-3416
東京営業所	〒134-0083	東京都江戸川区中葛西6丁目17-8	☎ 03-3687-5771
千葉営業所	〒264-0025	千葉市若葉区都賀3丁目19-1	☎ 043-214-0260
多摩営業所	〒192-0043	東京都八王子市暁町2丁目6-3	☎ 0426-20-5590
横浜営業所	〒222-0025	神奈川県横浜市港北区篠原西町34-33	☎ 045-431-7786
厚木営業所	〒243-0014	神奈川県厚木市旭町5丁目47-18	☎ 046-228-2243
静岡営業所	〒422-8046	静岡市中島2834-1	☎ 054-282-7012
さいたま営業所	〒331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町1丁目19-4	☎ 048-666-2521
宇都宮営業所	〒321-0912	栃木県宇都宮市石井町3149-28	☎ 028-656-8737
土浦営業所	〒300-0815	茨城県土浦市中高津1丁目12-48	☎ 0298-24-5212
前橋営業所	〒371-0037	群馬県前橋市上小出町2丁目46-3	☎ 027-234-5956
長野営業所	〒381-0043	長野市吉田5丁目24-16	☎ 026-244-3970
松本営業所	〒390-0313	長野県松本市岡田下岡田73-8	☎ 0263-45-1005
新潟営業所	〒950-0892	新潟市寺山3丁目32-12	☎ 025-275-5616
名古屋営業所	〒454-0826	愛知県名古屋市中川区小本本町1-75	☎ 052-362-2281
浜松営業所	〒435-0053	静岡県浜松市上新屋町231-6	☎ 053-467-0394
津営業所	〒514-0823	三重県津市大字半田池町590-5	☎ 059-227-2716
岐阜営業所	〒500-8367	岐阜市宇佐南4丁目2-4	☎ 058-271-4015
金沢営業所	〒920-0016	石川県金沢市諸江町中丁344	☎ 076-237-1230
大阪営業所	〒556-0022	大阪市浪速区桜川4丁目11-20	☎ 06-6561-8484
和歌山営業所	〒640-8482	和歌山市六十谷1234-7	☎ 073-462-7277
京都営業所	〒601-8304	京都市南区吉祥院前河原町1	☎ 075-321-0141
姫路営業所	〒670-0974	兵庫県姫路市飯田2-88	☎ 0792-33-6838
松山営業所	〒790-0064	愛媛県松山市愛光町9-14	☎ 089-922-8886
高松営業所	〒761-0101	香川県高松市春日町片田1638-7	☎ 087-843-1201
広島営業所	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2400
防府営業所	〒747-0031	山口県防府市迫戸町5丁目25	☎ 0835-27-0575
岡山営業所	〒700-0965	岡山市西長瀬261-104	☎ 086-241-3013
福岡営業所	〒812-0006	福岡市博多区上牟田3丁目5-22	☎ 092-411-9801
小倉営業所	〒803-0826	福岡県北九州市小倉北区高峰町10-8	☎ 093-561-3422
諫早営業所	〒854-0062	長崎県諫早市小船越町1021-3	☎ 0957-23-3341
大分営業所	〒870-0155	大分市高城南町7-13	☎ 097-552-1745
熊本営業所	〒862-0910	熊本市健軍本町7-17	☎ 096-365-0484
宮崎営業所	〒880-0022	宮崎市大橋3丁目134-2	☎ 0985-23-2126
鹿児島営業所	〒890-0073	鹿児島市宇宿2丁目23-18	☎ 099-257-6801

030320